

## 金沢城 金沢市丸の内 1-1

この地は加賀一向一揆の拠点で浄土真宗の寺院である「尾山御坊（おやまごぼう、または御山御坊）」であった。織田信長が一揆を攻め落とし跡地に金沢城を築いて佐久間盛政を置いた。後に盛政が賤ヶ岳の戦いで羽柴秀吉に討たれ秀吉は金沢城を前田利家に与えた。利家は文禄元年（1592年）から改修工事を始め、曲輪や堀の拡張、5重の天守や櫓を建て並べた。なお、佐久間盛政が新城を築いた時に一向一揆の印象が強い尾山ではなく金沢を城名に用いたが、前田利家が入城すると自身の出身地の尾張国にも通じる尾山を採用した。だが、金沢の地名が広く知られていたために尾山城の名前は普及せず、利家自身も再び金沢の城名を用い始めたと推測されている。城址は明治以降、存城とされて軍施設が置かれたため建物の一部を残して撤去され、第二次世界大戦後には金沢大学が平成7年（1995年）まで置かれていた。また、中条流平方の達人富田重政（とだしげまさ）は城内の越後屋敷にいたが、現在は新丸広場になっており建物は無い。（パンフ、説明版）



兼六公園側から石川門口登城



枳形から重文石川門



石垣に刻印



五十間長屋



河北門



石垣と櫓



日暮櫓



橋爪門



空堀



三十間長屋



鉄門跡



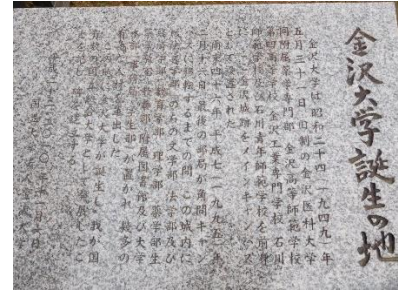
戌亥櫓跡



旧陸軍弾薬庫跡のトンネル



鶴丸倉庫



金沢大学の地



越後屋敷跡(ここに富田重政邸宅があった)だが今はない